

お金をかけずに“ざんねん社員”を育てるルーティン(第7回)

雑談を有効活用し社員みんなで人を育てる

2018.03.14

毎日、社員同士が雑談することで社員が育つ。驚くかもしれませんが、これは事実です。といっても、方法を工夫すれば、という前提条件付きの話です。

具体的な方法を紹介する前に、なぜ雑談が重要なのかについて、少し解説させてください。最近では業務効率化という掛け声の下、職場で雑談するのは好ましくないという風潮があるように思えます。確かに、長々と雑談をして肝心の仕事が手につかないのは考えもの。しかし、遠回りに見えて、実は雑談にはさまざまな効果があります。



では、雑談の効果とは何か。まず仕事と直接関係なくても見聞きしたことを自分の言葉で表現すると、物事を頭の中で整理する訓練になります。これは周囲から得た知識を「自分事」として捉え、後に知恵として生かすことにつながります。

また、雑談で他の人から聞いたさまざまな情報に関心を持つことによって興味が湧き、より詳しく調べるきっかけにもなります。そもそも雑談をするには、それなりにネタが要ります。そのネタを仕入れるために、日常生活の中でちょっと新しい体験をしたり、身の回りで起きた出来事を注意深く観察したりするようになります。

さらに、他人の話を聞くことで、自分と異なる価値観を持つ人がいることをあらためて認識でき、相手に対する理解が深まります。

どんな事象、どんな人物にも自分が知らないプラスの面があります。関心がないものから目を背けず、積極的に接点を持てば、新たな気付きや刺激を受けることができます。これが各社員の視野や考え方の幅を広げるのです。慣れ親しんだ物事や人物ばかりに目を向けていては、ものの見方や思考が偏り、なかなか成長は見込めません。つまり雑談は、社員が知恵として生かせる知識を身に付けたり、視野や考え方の幅を広げたりするのにうってつけ。だから、社員が成長する源泉となり得るのです。

雑談の効果を上手に引き出す方法があります。朝の始業時間前や昼休みなどに10分程度時間を割いて、仕事に関係ないことも含めて日ごろ感じていることを社員同士で話し合う機会を設けてみてください。注意点は特定の人が話すのではなく、持ち回りで話し始める人を変えて偏りをなくすこと。最初は同じ部署の社員同士でスタートしても問題はないですが、慣れてきたら他部署のメンバー同士で雑談してみるといいでしょう。

他部署の人と昼食を共にして業績アップ… 続きを読む